

経済建設常任委員会研修報告

当委員会は、昨年10月9日に鹿沼今宮神社祭の屋台行事を視察研修しました。当行事は全国の国指定の祭「山・鉾・屋台行事」33件の1つとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。県内では本市の山あげ行事との2件だけです。当日は秋まつり屋台揃い曳きが行なわれ、絢爛豪華な彫刻の屋台が勇壮に巡行する姿に鹿沼市民の誇りを感じました。

次に12月21日・22日に千葉県香取市を訪問しました。ここでは同じくユネスコ無形文化遺産に登録された佐原の山車行事について観光振興及び観光戦略の観点から研修しました。江戸優りと称される佐原の大祭は夏と秋に行われ、山車は24台、日本三大囃子「佐原囃子」を響かせながら小江戸の町並み（国選定重要伝統的建造物群保存地区）を練り歩く祭りで、夏・秋ともに約40万人の観光客が訪れていますが、人材の確保・観光客の滞在時間の延長が課題とのことです。本市と同じ課題を実感しました。さらに同市内にある「水の郷さわら」を訪問しました。同施設は平成22年に佐原広域交流拠点PFI事業（国県市共同）で整備し、利根川下流の防災拠点、道の駅と川の駅の併設、遊水公園の機能を有するものです。年間に約150万人の利用者があり、本市としても検討に値する研修となりました。

委員長 平塚 英教



道の駅常陸大宮かわプラザで説明を受ける委員



佐原の重要伝統的建造物群を視察する委員